

地域の安全を守る信号機を設置

亀川保育園付近の県道の交差点に



▲“渡り初め”のようす

亀場町の亀川保育園付近を通る県道の交差点に2月8日、押しボタン式の信号機が設置されました。交通量が多く地元小学校の通学路にもなっていることから、地域住民からの要望で設置されたものです。この日は現地での点灯式が実施され、行政や警察、地元住民、同保育園の園児など40人が出席。信号機の点灯や参加者による“渡り初め”が行われ、設置を祝いました。

思いおもいに歩き体も心も温まる

くすぼ菜の花と神々の郷ウォーク



▲菜の花を眺めながら歩く参加者

2月7日、有明町楠甫で「第8回くすぼ菜の花と神々の郷ウォーク」が開かれ、同地区コミュニティセンター発着の6.7km・2.5kmに約600人が参加しました。参加者は、田んぼに咲く菜の花の風景を楽しんだほか、神社に参拝したり休憩所では温かいぜんざいに舌鼓をうったりして、思いおもいにウォーキングを満喫。ゴールした参加者は、「体も心も温まりました」と笑顔で話していました。

牛深の方言を大切に

牛深地区公民館・全体講座



▲講演をする吉川さん

2月7日、牛深地区公民館全体講座「[※]なんば、しまいかな(方言を学ぶ)」が牛深総合センターで開かれ、地域住民など30人が受講しました。牛深歴史文化遺産の会の吉川茂文さんが講師となり、自身が編さんしている牛深地方の方言集のほか、方言民話などを紹介。「方言は大切にしたかですね」と話され、受講者は熱心に聞き入っていました。
※“何をすればいいのかな”を意味する方言。

ケーキのデコレーションに挑戦!

栖本小学校・ものづくりの魅力講座



▲霜上さんからデコレーションの仕方を教わる児童

1月28日、栖本小学校で県職業能力開発協会の「ものづくりの魅力講座」が開かれ、6年生11人が洋菓子職人の霜上明宏さん(玉名市)から菓子作りを学びました。児童たちは、霜上さんから菓子作りの魅力などを聞いた後、ケーキのデコレーションに挑戦。スポンジ生地に生クリームを塗ったり、絞り袋を使って飾り付けをしたりするなど、熱心に取り組んでいました。児童は、「難しかったけれど楽しかった」と笑顔で話していました。

天草の海産物を合志で販売・発信!

“ふるさと名物こうしマルシェ”オープン



▲天草の海産物の品定めをする買い物客

県北に位置する合志の特産品をメインに、天草の海産物を常時販売・発信する物産施設“ふるさと名物こうしマルシェ”が2月6日、合志市にオープンしました。

同市・天草市・上天草市が、この施設の活用に関する連携協定を昨年8月に締結したことから、天草産の商品の取り扱いが実現した。この日はオープン初日とあって、多くの買い物客が来店。天草産のアジの干物やかまぼこなどを買い求めていました。

新しい“みぞか号”を楽しむ

ATR42-600お披露目会in天草空港



▲新型機の写真撮影などをする見学者たち

天草エアラインの新型機“ATR42-600”(みぞか号)のお披露目会が2月14日、天草空港でありました。250人の応募の中から抽選で選ばれた150人や関係者が、駐機場に入り新型機を見学。座席の座り心地を確認したり、機体をバックに写真撮影をしたりして楽しんでいました。このほか、客室乗務員の新制服の披露や実演飛行、グッズや旧型機部品のオークションなども行われ、にぎわいを見せていました。

伝統の“ぶつかり合い”

河浦高校・送別ラグビー大会



▲教職員のタックルを受ける生徒

河浦高校(全生徒78人)で2月6日、卒業を控えた3年生男子生徒と教職員が激しくぶつかり合う伝統行事「送別ラグビー大会」が行われました。39回目で、今回は生徒の保護者も教職員チームの一員として参加。試合は、生徒チームがリードされながらも後半に逆転し、17対7で2年ぶりに勝利。生徒チームの大橋駿也さんは、「逆転トライが決まり気持ちよかった」と話していました。

二江特産トサカノリがお目見え!

トサカノリ漁が解禁



▲水揚げされるトサカノリ

五和町二江で1月15日、特産の素潜りによるトサカノリ漁が解禁になりました。トサカノリは、水深5~13mの海底に生えている海藻。主に生でサラダにして食べられており、色と形がニワトリのトサカに似ていることから、この名前がついたといわれています。

2月4日、天草漁協五和支所裸潜組合の漁師たちが漁を終えて二江漁港に帰港すると、コンテナに満載のトサカノリを次々と水揚げしていました。漁は6月末まで行われます。